

# 水稻生育情報 (No.4)

令和6年7月1日  
県南農林事務所経営・普及部門  
(土浦地域農業改良普及センター)

## 【気象と生育の概況】

本年5月から6月第6半旬までの気象は、日平均気温が平年より **1.7℃高く**、降水量が平年比 **141%と多く**、日照時間が平年比 **120%と多かった**。

6月30日現在の水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況は、草丈は**平年並み～やや短く**、茎数は**少なく**、葉色は**平年並み**の状況です。**5月上旬移植の圃場は幼穂形成期に入っているため、中干しを終了し、間断かんがいを始めましょう。**

表1. 水稻定点調査 (7月1日現在: コシヒカリ)

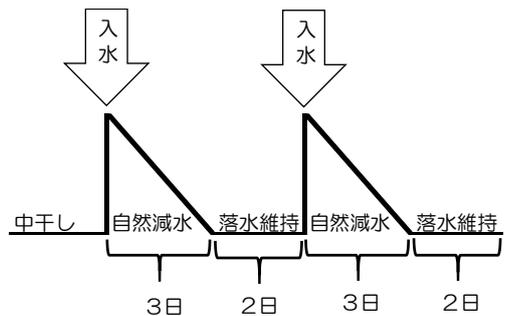
調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉色板) (SPAD値)	幼穂長 (mm)	
土浦市	<b>5月5日</b>	<b>60</b>	<b>67.2</b>	<b>475</b>	<b>3.9</b>	<b>31.2</b>	<b>0.5</b>
飯田	(5月5日)	60	(60.1)	(494.1)	(3.8)	(31.4)	(0.5)
石岡市	<b>5月15日</b>	<b>50</b>	<b>63.1</b>	<b>511</b>	<b>3.5</b>	<b>32</b>	<b>0</b>
柿岡	(5月15日)	50	(60.1)	(488.5)	(3.8)	(31.5)	(0.1)

※ ( ) 内は平成26年～令和5年の10か年平均値

## 【今後の栽培管理のポイント】

### ●中干し後の水管理～間断かんがい～

5月上旬移植コシヒカリは7月上旬に幼穂形成期に入りますので、中干しを終了して下さい。中干し後の稲の根は、畑作物の根のように酸素を必要とします。常時湛水管理では根腐れを起こす危険が高まります。根の活力保持のため右図の様に間断かんがいをを行います。

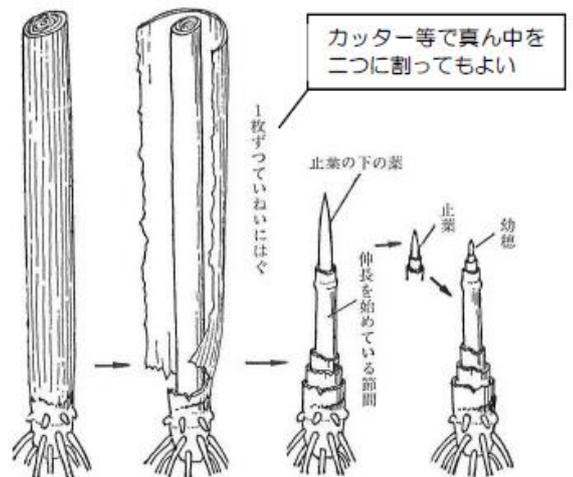


### ●いもち病の防除について

気温 14～30℃で多湿条件のときに発生しやすく、葉いもちは例年6月下旬から発生が認められます。向こう一週間は、曇天が続き本病が発生しやすい条件です。水口や葉色が濃い部分を中心に観察し、発生したら防除します。

### ●追肥について

「コシヒカリ」の適正な追肥時期は出穂前15日頃です。幼穂長が10mmで出穂18日前、30mmで出穂15日前です。幼穂は生育が中庸な株の主稈を調べます。異なる株から5本程度の幼穂長を計測し平均値をとります。右図を参考に行ってください。



幼穂長の調べ方

追肥量は窒素成分で1～2kg/10aです。ただし、出穂20日前頃(幼穂長4～6mm)の草丈が80cm以上で葉色(カラスケール)が4以上の時は倒伏の恐れがあるので、追肥を控えるか遅らせます。

多収性品種や飼料用米では出穂20～25日前(幼穂長0.5～5mm)が追肥の適期です。窒素成分2～4kg/10aを目安に施用します。

### ●斑点米カメムシの耕種的防除

畦畔の除草を出穂2週間前までに完了させます。早生品種では7月上旬に出穂見込みの圃場も見受けられます。今年は斑点米カメムシ類の多発が懸念されるため、適期に薬剤による防除を行います。